2026卒

就職活動スケジュール徹底解説

政府推奨スケジュールでも一定条件下で早期内定出しが可能に。インターンシップの活用がカギに。

採用スケジュールの多様化／早期化がさらに進み、複雑化する2026卒（2024年6月時点で修士1年生／学部3年生など）の就職活動。26卒理系学生の就職活動スケジュールはどのような日程になるのか。注意すべきポイントは――本記事では26卒就活の展望を解説します。

政府推奨の基本スケジュールは例年同様も、内定出しに関するルールなど一部変更。

2023年12月に政府は経済界や大学側も参加した関係省庁連絡会議を開き、就職活動ルールに関する方向性を確認。基本的なスケジュールは現行ルールを維持するものの、「2週間以上の専門活用型インターンシップに参加した学生に対しては早期の内定出しを認める」という方針を決定しました。

専門活用型インターンシップとは、高度な専門性が求められる業務で2週間以上の職場体験ができるプログラムを指し、参加学生に対しては「6月の採用選考開始時期にとらわれない」採用選考と内定出しが可能となります。

現行（2025卒）の基本的な就活スケジュールを改めて確認すると、まず修士1年／学部3年の夏から冬にかけてインターンシップが実施されます。その後、翌年3月1日に本採用の広報が本格的にスタート。6月1日から企業の採用選考（面接や筆記試験など）が解禁となり、選考通過者に対して随時内々定が出される、というのが政府推奨スケジュールの基本的な流れとなります。

採用直結型インターン・早期選考・通年採用など選考プロセスの多様化が進む

前述の就職活動スケジュールはあくまで政府推奨の日程であって、実際はこのスケジュールより早期に採用活動を行う企業が多くなっています。現在でも採用直結型インターンシップを行なったり、秋から冬にかけて面接を実施して早々に内々定を出している企業など、早期選考を行う企業は年々増加傾向にあります。

特に近年は採用活動の早期化が一段と加速し、2024卒の就職活動では修士2年／学部4年の5月末までに79・2％（前年比6・3ポイント増）の学生が内定を受諾しているという調査結果が出ています（理系ナビ会員調べ）。

また、インターンシップの定義に

ついても各企業で異なっているケースが多く、個別に確認していく必要があります。そのため、早期からしっかり情報収集に取り組むことが重要といえるでしょう。

オンライン就活が浸透した一方で、オフラインへの回帰も

コロナ禍で就職活動のスタイルは激変しました。その筆頭にオンライン就活の浸透が挙げられるでしょう。昨今でも各種採用プロセスはオンラインでの実施が主流となっていますが、その一方で現地開催のインターンシップに参加した就活生からは「現地の雰囲気や社員の働き方を間近で感じられるのは大きい。オンラインで得られる情報は限定的」と、オフラインで得られる情報密度を改めて評価する声も聞かれます。採用企業としても、オフラインで学生と接することで相互理解を深めたり、提供できる情報量が増えることを期待しているケースも多く、オフラインでの選考やイベントは情勢を見ながら活用が進むと思われます。

円安や世界情勢の不安定化による就職市場への影響は

急速な円安進行、資源価格高騰によるインフレ加速、世界情勢の不安定化など、今後の日本経済の見通しは決して予断を許さない厳しい状況が続いています。アメリカでもGAFAMを筆頭とするテック系企業や金融、コンサル業界などでリストラが進んでおり、世界的な景気後退リスクはくすぶり続けています。

とはいえ、プラス思考でとらえれば「先に就職した先輩達よりも、今

2026卒 就活スケジュールの見通し

昨年度の動きを参考にした2026卒向け就職活動スケジュールの大まかな見通しです。企業の選考活動時期は多様化しているので、志望企業・業界の選考スケジュールは個別にリサーチしましょう。

後の経済の在りようを見極めたうえで業界・企業を選べる」という考え方もできます。コロナ禍でも業績を伸ばした業態・企業は少なくないですし、一時的に業績が悪化したとしても中長期的には大きなポテンシャルを秘めた企業もあるので、必要以上に悲観的にならず、業界・企業研究に取り組みましょう。

さらなる就活早期化で高まるインターンシップの重要性

理系学生は卒業年次に学業などで忙しくなるケースが多いため、就職活動が本格化する前に学業や研究、就活準備などを可能な限り進めておくことが望ましいでしょう。早期に内定を獲得できれば問題ありませんが、修士2年／学部4年の夏以降も就職活動に取り組む必要が出てくると、学業への影響はさらに大きくなってしまいます。

また、近年は早期選考を実施する企業が増えているため、就職活動を円滑に進めるためには早めに行動を起こす必要があります。選考プロセスにおいてインターンシップを重視する企業が増加しているため、できる限り修士1年／学部3年の時点でのインターンシップ参加を推奨します。インターンシップは仕事や会社についての理解を深められるため、経験者は本選考での志望理由が明確となり、自己分析も深掘りできている傾向があります。さらに、参加学生に対して優先的に早期選考情報を提供したり、そのまま採用選考を実施するケースもあるため、参加メリットは少なくありません。

とはいえ、現時点では「どの業界／職種を志望すればいいのかわからない」という方も少なくないでしょう。そういったケースでは、少しでも関心を持ったインターンシップにとにかく参加してみましょう。インターンシップは仕事や会社について、多くの判断材料を集められるので、自身の適性や本当にやりたいことを見極める絶好の機会。仮に「全然イメージと違った、自分には合わないと思った」といった結果でも、今後の行動指針を決めるうえで貴重な情報を得られるはずです。

すでに多くの企業で2026卒向けインターンシップのエントリー受付を開始しています。最近はWEBインターンシップやオープンカンパニーを実施する企業も増加しており、参加のチャンスは広がっているので、みなさんも『理系ナビ2026』で興味のあるプログラムを探してみてください。

まとめ

現在進行中の2025卒就職活動でも、各企業は採用スケジュールや選考プロセスの変更を行っています。インターンシップ実施時期やプログラム内容などはまだまだ改善の余地が大きいと感じている企業担当者も多く、現状を分析したうえで2026卒就活における選考プロセス、スケジュールの見直しを行う企業は少なくないでしょう。
繰り返しとなりますが、26卒就活生は各企業が発信する最新情報を早期からチェックし、行動計画を考えることが一層重要となります。就職活動が本格化するまでの時間を活用し、社会についての理解を深めたり、自身のスキルアップに努めたりと、時間を有意義に使ってください。「自分が将来どうなりたいのか」「そのために何をするべきなのか」いまから考えてみてください。

2026卒 就活のチェックポイント

CHECK! 1

政府推奨就活スケジュールは前年を踏襲

26卒対象のインターンシップは2024年夏から冬にかけて実施。就職情報解禁は2025年3月、面接解禁は6月から（政府推奨スケジュール）。

CHECK! 2

一部のインターンシップ参加者に対しては早期内定出しを解禁

高度な専門性が求められる業務で2週間以上の職場体験ができる「専門活用型インターンシップ」に参加した学生に対しては早期の内定出しを認める方針に。企業のインターンシップ重視の姿勢がさらに強まる。

CHECK! 3

早期選考を行う企業が増加傾向

2024卒の就職活動では修士2年／学部4年の5月末までに79.2%（前年比6.3ポイント増）の学生が内定を受諾。早い企業は前年の秋から採用活動を開始。26卒就活では基本スケジュールにとらわれない早期選考がさらに増加か。

CHECK! 4

オンライン就活からオフラインへの揺り戻しも

会社説明会や初期の面接などはWEBでの実施が主流に。インターンシップもオンラインプログラムが多いものの、一部企業ではオフラインに戻す動きも見られる。

CHECK! 5

世界経済の動向は不透明。就活市場への影響を注視

急速な円安進行、資源価格高騰によるインフレ加速、世界情勢の不安定化など、世界経済の動向は予断を許さない。社会情勢を注視し、中長期的視点で企業・業界研究に取り組むべき。